NEWS INDEX

SBI生命

生保初、帳票生成データをXMLで標準化
工期とコストを大幅削減

SBI生命は新規契約業務の開始に伴い、オンライン帳票生成システムとして、保険会社向け帳票ソリューションを展開する㈱ミックが提供する「Open!PrintXML」を導入した。これにより、帳票生成に伴う受け渡しデータのXMLでの標準化を実現。約100種類の帳票開発の着手からリリースまでを4カ月弱で実現し、開発期間の大幅短縮とコスト削減につながった。XMLによる標準化は生保業界では初めてだという。

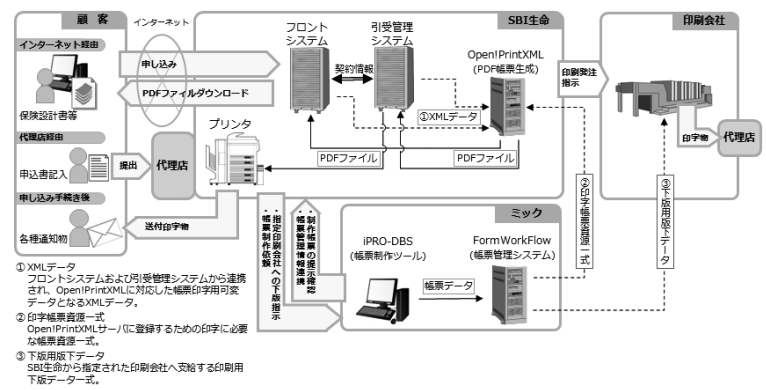
同社（旧ピーシーエー生命）は、SBIグループが2015年2月に旧ピーシーエー生命の全株式を取得後、同年5月に社名を「SBI生命」に変更し、新会社としてスタート。金融庁からの承認を受け、今年2月から新規保険の引き受けを再開した。

新会社としてスタートしてからの約1年間は、社内体制の整備や新商品の開発などを進めてきた。帳票の制作に当たっては、SBIグループの「金融イノベーターたれ」という経営理念を踏まえ、高品質で革新的なものを開発することで顧客へ還元することを目指し、①オンライン・印刷問わず全ての帳票（100帳票弱）の制作・管理②ユニバーサルデザインを考慮したデザイン設計③告知書などは顧客情報の内容によってレイアウトを可変対応（One to One対応）④フロントシステムと連携させた保険設計書などのオンライン帳票生成システムの構築―の4点を開発範囲とした。

一方で、システムエンジニアが新規設計やプログラミングなど全ての工程を請け負い、システムデータベースを設計してから帳票の制作に取り掛かる通常のスキームでは、工数や時間、コストがかかることから、ミックが提供する「Open!PrintXML」の導入を決めた。

帳票制作は、オーバーレイから先行着手。この段階では正式な項目名が決まっていなかったものもあるため、仮の項目名で項目配置し、帳票サーバーが構築できた段階でフロントシステムとの結合テストを部分的に実施することで、開発・テストの効率化を図った。また、記載・記入枠とその配慮条件をXMLで部品化し、One to One帳票の生成を実現。印刷帳票の制作も同時進行し、オンライン帳票の記載文言などに変更が生じた際はミックの帳票管理システムの機能を活用した変更管理を実施することで、修正の抜け漏れや先祖返りを防止した。

また、少子高齢化などの社会環境も踏まえ、帳票の見やすさ、分かりやすさを向上させるため、同社独自のブランドガイドラインを作成。そのガイドラインとユニバーサルデザインに配慮したデザインとした。



システムイメージ図

可変対応については、従来の開発では、帳票印字用データの形式はフロントシステム側で決めていたが（主にCSV形式）、項目名と項目値を中心としたシンプルなファイル構造とすることが可能なXML形式は、帳票開発工数の大幅な圧縮を目的にした標準化に最適なことから、帳票印字用のデータ形式にXMLを採用した。これにより、フロントシステム側の開発負荷を軽減できただけでなく、テスト工数の大幅な圧縮と約40%のコスト削減になった。

オンライン帳票生成システムは、「Open!PrintXML」によって帳票印字用データ形式のXMLによる標準モデルが構築できたことから、フロントシステムと「Open!PrintXML」とのやり取りの方法やデータ形式の取り決めなどを数回の打ち合わせのみで開発した。

執行役員兼IT部長の池山徹チーフ・オペレーション・オフィサーは「システムのデータベース設計・構築と帳票のオーバーレイへの着手が同時進行できたことが非常に有効で、その結果、開発期間やコスト、工数の短縮になった。書類の審査部門からは帳票に不備が少なくなったとの声も寄せられており、社員の業務効率化にもつながっている」と話す。また、「今回は新契約分野からの対応となったが、XML形式によるデータ連携は柔軟性や汎用性が高いことから、今後は保全や請求などの他の帳票制作にも導入していきたい」としている。

一方、ミックの細川謙三社長は「保険会社では新契約、保全などの業務ごとにシステムがあり、ツールや受け渡し用データもそれぞれ異なる。そのため、SBI生命には、可変データに関してはXMLを導入して汎用的なルールを設けることを提案した。こうしたルールを決めて帳票開発を進めた例はないが、当社のノウハウを生かせば実現可能だ。今後も保険業界の帳票に関するコスト削減や標準化を支援していきたい」としている。

保険毎日新聞

日　刊（但土曜 日曜 祝日休刊）
定価1カ月4,115円（送料＋税込み）

発行所
㈱保険毎日新聞社
東京都千代田区岩本町1丁目4番7号
〒101-0032
電　話 03(3865)1401(代表)
振　替 00140－6－70860

© 保険毎日新聞社